

博物館ニュース

MUSEUM NEWS



図1 イソテヌグイ
(海の博物館蔵)



図2・図3 オオノミ
(海の博物館蔵)

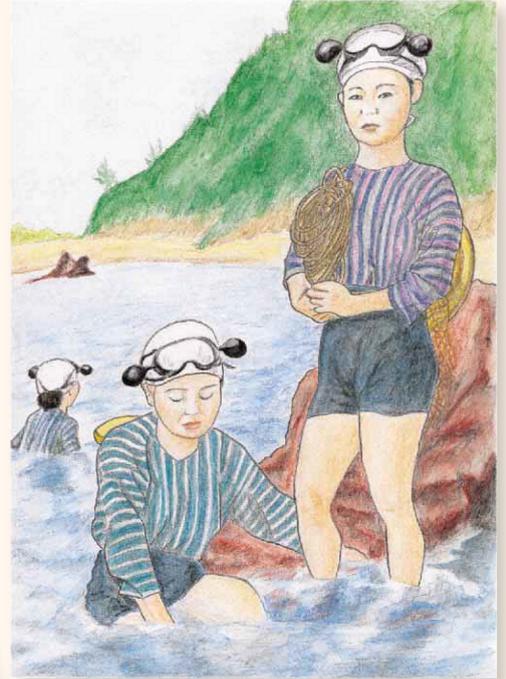


図4 あたまかぶり
(宗像市民俗資料館蔵)



アマと魔除け

日本列島各地には、海に潜って貝や海藻を採るアマと呼ばれる人びとがいます。図1は、かつて志摩の海女さんたちが頭にかぶって潜水漁をしていたイソテヌグイです。「ドーマン(五芒星)☆、セーマン(九字)###」と呼ばれる印が紺色の糸で縫い込まれているのに気付きましたか?ほかにいろいろな寺社の朱の印判が押されています。海女を海底に引きずり込む「トモカツギ」という妖怪に出逢わないため、魔除けとしてこれらの印のついたテヌグイをかぶるのです。龍神さん(海神)の知らない文字だから魔除けの効果があるという伝承によるものです。

ほかにも、アワビを起こすために使うオオノミという道具がありますが、この道具の柄(図2・3)にもドーマンが見えます。また、福岡県宗像市鐘崎の海女も、「大」という文字を縫い付けた「あたまかぶり」をかぶって海中に潜っていました(図4)。

危険な海中で作業をしてきた人々の、自然への対応と、その心意をうかがうことのできる資料です。これらの資料は企画展「海人の見た世界—知られざる伝統文化発見!—」で展示する予定です。

(民俗担当：磯本宏紀)

博物館と行政が タッグを組んで自然を守る

小川 誠

私は、博物館で植物担当学芸員をしています。主な仕事は、さまざまな方々のご協力をいただきながら、県内外の植物を調べて標本を作製したり、寄贈された標本を整理したり、新しい発見を論文に書いたり、植物に関する展示や普及行事を企画したりすることです。私が扱う標本は20万点もの多数にのぼることから、これらの標本を効率よく整理・活用し、情報発信するためのデータベース作りや検索システムの開発などにも力を入れて取り組んできました。

そうした立場から、環境省や徳島県のレッドデータブックの作成に関わり、また、徳島県が進める自然環境の保全や希少野生生物の保護等に関する各種検討委員会委員やアドバイザーなども引き受けています。

博物館が2004年に策定した中期活動目標では、博物館活動を通じて蓄積した様々な博物館資源（資料・情報・学芸員の知識）を自治体や地域社会の事業推進に役立てるという社会貢献活動も博物館の重要な活動のひとつであると位置づけられています。私も他の生物分野の学芸員とともに、私のできる範囲で積極的にこうした事業にも協力して行きたいと考えています。

ところで、博物館での仕事が具体的にどのように自然環境の保全、特に生物多様性の保全に生かされているのでしょうか。いくつかの例に基づいて述べてみたいと思います。

公共工事において、生物多様性を保全するためには、影響がある範囲内にどのような生き物がいるかを調べて生物相のリストを作成し、保全の必要性のある種（保全対象種）を抽出し、対策を立

てる必要があります。そのための植物相に関する調査は図1のような手順になります。ところが、このような調査が行われているにもかかわらず、適切な保全対象種が抽出されず、必要な対策が立てられなかった例が見られます。この原因はいくつか考えられます。

まず、調査のための事前の情報収集が十分に行われなかったことが原因のひとつです。現地調査の計画を立てるためには、事前の情報収集が重要です。それには過去に出版された文献や採集された標本、地元の方々からの情報などを集める必要があります。重要種がすでに記録されており、現地にも生育していたにもかかわらず、現地調査では見落とされたために配慮されなかったという例もあります。博物館には収蔵された植物標本のうち10万点を越える標本がデータベース化されており、文献なども集まっていますので、そうした情報が比較的簡単に集めることができます。

次に現地調査の精度が悪いことも原因のひとつとしてあげられます。専門家の目から見ると、調査で得られた植物のリストを精査することにより、どの程度の精度の調査が行われたかがわかります。

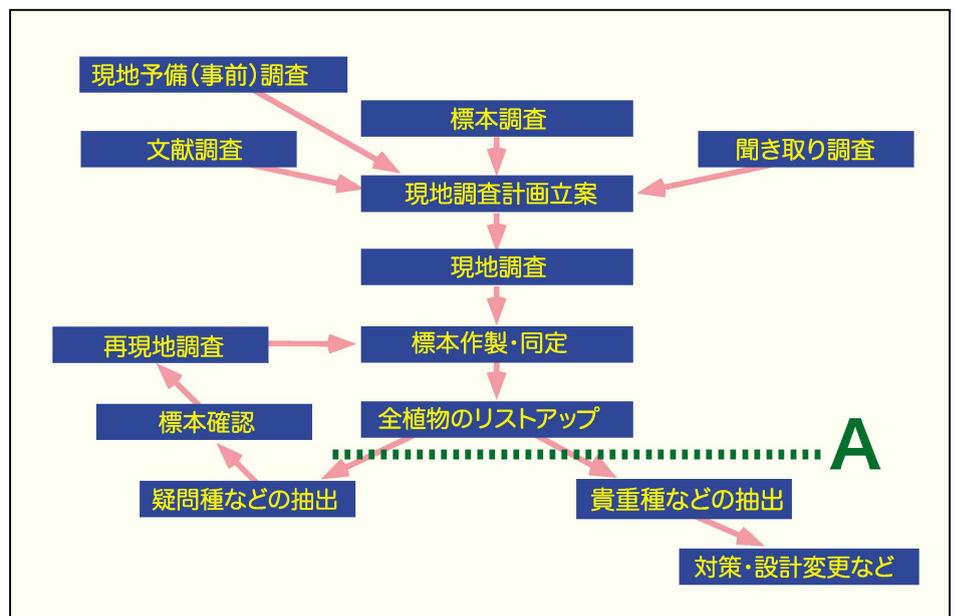


図1 植物相調査の手順

私は博物館ニュースの57号に「アゼオトギリの群落発見」という記事を書きました。これは、環境調査でもたらされたデータを見たところ、改修されていない古い水路があるといった生物にとって良い環境の割に絶滅危惧種があがってきていなかったことに疑問を持ったため、現地に行ってみて発見したものです。生育地はその後詳細な調査が行われ、保全の措置が取られることになりました。もし、これが見つからないままだったら、この生育地は破壊されていたことになります。

博物館にはいろいろな情報が整備され蓄積されています。たとえば、徳島県の植物については徳島県植物誌が1999年に出版されていますが、これをベースに新しく発見された種や誤認などを修正し「県内で記録された種」のデータベースを整備しています。それを用いると、植物相調査結果チェックシステムを構築することができます(図2)。このチェックシステムは、調査で得られた植物のリストを処理することによって、絶滅危惧種などの保全対象種や誤同定等の疑問種にふるい分けすることができます(図1の点線A)。このシステムを使うと、県内では記録されていない種がしばしば出てくるのですが、標本を確認しても同定の誤りであったという例が多くあります。同定の確認できる標本すら残っていない例も少なからずあり、問題が多い場合は調査精度が低いと判断できます。そこで現地調査をやり直すと、絶

滅危惧種が次々と見つかるという例もありました。

保全対象種が決まった後でも、その対策に対する専門的知識が必要になります。レッドデータブックに載っているからという理由で準絶滅危惧種に対して過大な配慮対策を行っている例もありますが、準絶滅危惧種は「現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては『絶滅危惧』として上位ランクに移行する要素を有するもの」ですので、それほど保全措置をとる必要が無い場合もあります。むしろ、そうした種が出てくるのであれば、他の絶滅危惧種が出てくる可能性が高いと判断し、綿密な調査を行うべきで、実際に、その周辺から調査で見落とされていた絶滅危惧種が見つかることもしばしばあります。

ひと口に絶滅危惧種といっても、それぞれ性質が違うものです。博物館ニュースの45号で紹介したタコノアシのように、土木工事でいったん土砂に埋まっても、土砂を取り除いてやるだけで回復する植物もあります。これはタコノアシが本来、河川の氾濫原の湿地に生育する種で、洪水の際に土砂に覆われてしまう場所に生育している植物だからです。そうした生き物としての特性を見極めて配慮対策を行うには専門的な知識が必要です。

このように博物館と行政がタッグを組んで自然を守る仕組みが整備されつつあります。この仕組みが自然環境の保全にむけて有効活用されることを願っています。(植物担当)

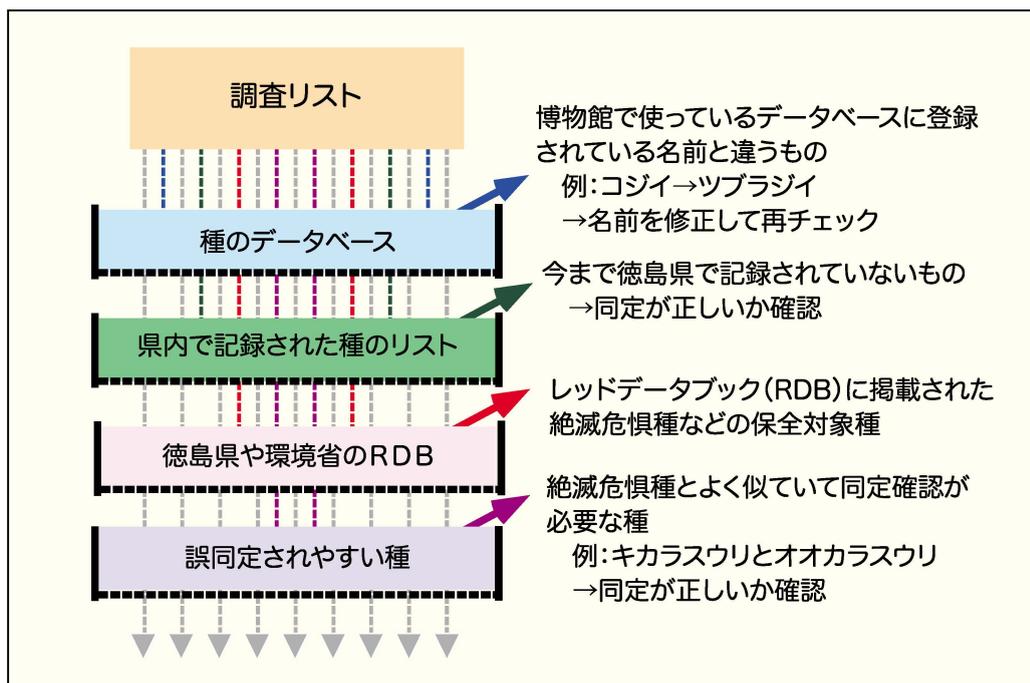


図2 植物相調査結果チェックシステム。博物館に蓄積されたさまざまなデータを使ってふるいにかけて、調査の問題点が明らかになる。

『徳島の銅鐸』

初の徳島県内出土銅鐸ガイドブック!!

銅鐸は、今から2000年ほど前の弥生時代につくられた青銅器の一つで、“謎の青銅器”とも呼ばれています。何に使われたのかははっきりとしませんが、おそらく稲作のまつりに使われた道具ではないかと考えられています。徳島県からはこれまでにおよそ50個の銅鐸が出土したとされています。これは、加茂岩倉遺跡で知られる島根県に次ぎ、大岩山遺跡を擁する滋賀県や絵画銅鐸で有名な桜ヶ丘銅鐸の兵庫県と並び、全国でも有数の銅鐸出土地であることを意味しています。

今回、徳島県立博物館が発行する徳島の自然と歴史ガイドシリーズの第5弾として『徳島の銅鐸』が刊行されました。これは、徳島県内出土銅鐸のうち、所在が明らかな32点すべての写真を掲載した、はじめての徳島県内出土銅鐸のガイドブックです。

原則として一つの銅鐸で見開き2ページを使い、A・B面と側面の写真を掲載し、型式、出土地、大きさなどの情報も一目で分かるようになっています。出土当時の貴重な写真や今回はじめて公開される写真も含まれているほか、赤色顔料が付着した銅鐸の分析結果や、一部の銅鐸ではX線（レ



徳島の自然と歴史ガイド No.5

『徳島の銅鐸』

- A 4判 72ページ
- 徳島県内から出土した銅鐸32点・小銅鐸1点の写真を掲載（A・B面、側面など）
- 付着赤色顔料の蛍光X線分析による分析結果
- X線透過写真
- 徳島県内出土銅鐸関連文献リスト
- 徳島県内出土銅鐸一覧表 など

ントゲン) 透過写真などの徳島県立博物館がこれまでに行ってきた調査成果も掲載しています。

博物館2階の常設展入口の受付カウンターや1階ミュージアムショップに見本が置いてありますので、ぜひ一度手に取ってご覧ください。大きなカラー写真を見て、銅鐸の謎解きに挑みながら、少しでも郷土徳島の歴史に関心を持っていただけるとうれしいです。（保存科学担当 魚島純一）

内容の一例



伝長者ヶ原1号銅鐸

A面



B面



側面 (A-B)

宝永年間に阿南市山口町北谷の長者ヶ原から出土したと伝えられる2個の銅鐸。

大きい方の1号銅鐸は扁平鐘式4区画縦線文銅鐸である。鐘の部分がところどころ欠損しているが、ほぼ定形に近い状態である。鐘には連続渦巻文、また身の4区画のうち下段の2区画には双頭渦巻文が描かれている。ほぼ全面に茶褐色がかった色合いを呈しており、古くから「朱塗りの銅鐸」として認識されている。文様の間部では内眼でも容易に赤色顔料の存在が確認できる。特に鐘の部分には顕著に見られる。

1991年、徳島県立博物館が行った蛍光X線分析の結果、赤色顔料には水銀朱(=辰砂、HgS)が含まれていることが確認された。

名 称：伝長者ヶ原1号銅鐸	現 高：64.3cm
形 式：扁平鐘式4区画縦線文	鐘 高：17.2cm
出土地：阿南市山口町北谷の長者ヶ原	鐘 口径：14.0cm、底径：10.1cm
出土年：1707年? (不明)	胴 口径：20.5cm、底径：20.3cm
所 属：徳島県立博物館	重 量：6.62kg

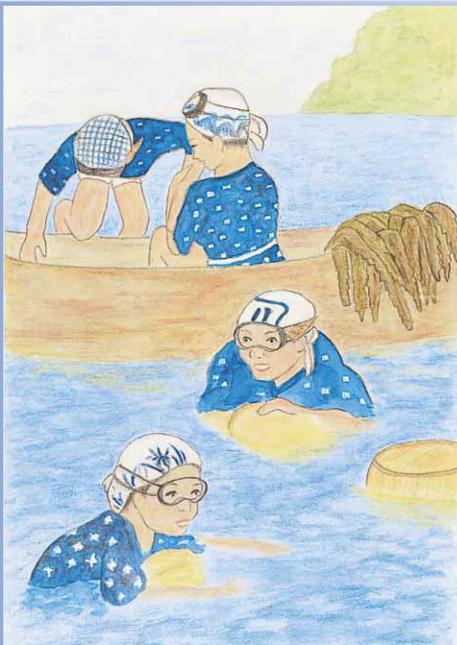
平成18年度第3回企画展

「海人の見た世界」

— 知られざる伝統文化発見！ —

古来、漁撈活動をなりわいとした人々は「あま」と呼ばれ、「海の民」として知られてきました。そして、広域にわたる交流・交易を繰り返して、海の伝統文化を形成してきました。そうした人々の中で顕著にみられたのが、海に潜って魚介を採取する潜水漁でした。現在では、もっぱら素潜りによる潜水漁にたずさわる人々を指してアマと呼んでいます。海人に注目することは、海との結びつきの強い徳島の伝統文化を語る上でも、見過ごすことのできないテーマです。

本企画展では、現在の海人像を起点として、多様な海人文化に迫りたいと思います。海での労働や自然とのかかわりから、食、儀礼、信仰、祭礼へと広がる海人文化について展示し、徳島の伝統文化の新たな一面に迫ります。海から見た徳島の、知られざる伝統文化を再発見するきっかけとなることと思います。



会期 平成18年10月7日(土)～11月26日(日)

休館日 10月9日を除く毎週月休日(月曜日が祝日の場合は翌日)

会場 博物館企画展示室

観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円
※20名以上の団体は2割引、65歳以上は半額、土曜日・日曜日・祝日・長期休業中の小・中・高校生は無料、学校教育での利用は無料

企画展関連行事

■企画展スケッチ大会

日時 10月15日(日) 10:30～15:00

場所 博物館企画展示室

■展示解説

日時 10月22日、11月19・26日(日)

14:00～14:30

場所 博物館企画展示室

■映画上映会

映画題名 「海女のリャンさん」

日時 10月29日(日) 10:30～12:00／

13:00～14:30／14:45～16:15

会場 文化の森・21世紀館ミニシアター

■記念講演会

演題 「海の伝統文化・あま」

講師 田邊 悟(千葉経済大学経済学部教授)

日時 11月5日(日) 13:30～15:30

会場 文化の森・21世紀館イベントホール

「展示構成」

- (1) 歴史に綴られた海人—過去と向き合う
文献に見る海人／出土遺物から見た潜水漁／熨斗鯨の伝統文化／食文化と海人
- (2) 語られる海人—自然と向き合う
アマの使った道具たち／器械潜水漁への展開／アマと魔除け／アマ漁具の比較／阿波のアマ
- (3) 描かれた海人—世間と向き合う
錦絵に描かれた海女／描かれた海女の珠とり／観光と海女／絵はがきになった海女／みやげものになった海女

中央構造線(板野)の断層変位地形

博物館では数年前に、板野町の阿讃山地南麓で地質や地形の見学を目的とした「野外自然かんさつ」会を行ったことがあります。そのコースのハイライトでもある沖積扇状地を切る低断層崖は、中央構造線による典型的でわかりやすい断層変位地形のひとつであることから、本誌上でも紹介しておきたいと思います。

阿讃山地と吉野川平野の境界部には、中央構造線という我が国でも第一級の断層(断層群)が東西に走っていることはよく知られています。これらの断層のうち、最近(第四紀後期およびその後の時代)まで活動を繰り返したことのある断層は、中央構造線活断層系と呼ばれ、徳島県下では西から、池田断層、三野断層、父尾断層、神田断層、板野断層、鳴門南断層、鳴門断層が知られており、断続したり、雁行・並走しながら東西方向に続いています。

阪神淡路大震災以降、全国的に活断層が注目されるようになり、将来の防災に役立てるためにその活動履歴を調べる事業が各地で行われました。徳島県においても、平成10~12年に鳴門市、板野町、三野町(現:三好市)の4、5カ所で、断層が通ると予想される場所を南北に掘削して断層を確認し、その活動履歴を調べるトレンチ調査が行われています。

さて、板野町吹田~大寺一带は大坂谷川がつくった扇状地で、南にゆるく傾斜した平地が広がっ

ています(図1)。しかし、板野東小学校グラウンドと校舎敷地の間を東西に走る道路を境に、その北側と南側では2mほどの高度差があり、道路に沿って1.5~2mの段差(南落ち)が東西に300mほど続いているのが認められます(図2)。これが板野断層の活動によって

形成された低断層崖であると考えられます。そして、この低断層崖を南北に横切る道路はここで坂になっているのが認められます。

板野東小学校から東へ800mほど行った板野川端では、平成11年に徳島県によってトレンチ調査が行われ(図1の川端Bトレンチ)、砂礫層を切る明瞭な断層が確認されました(図3)。地層の年代および地層と断層の関係の分析から、この地域では約2,000年前以降に3回のイベント(地震)が発生し、地層の変形を生じさせたと考えられています。(館長:両角芳郎)



図2 板野東小学校グラウンド北側を通る道路と低断層崖(図1の●印)。道路を境に左側(南側)が右側(北側)に対して1.5~2m落下している。

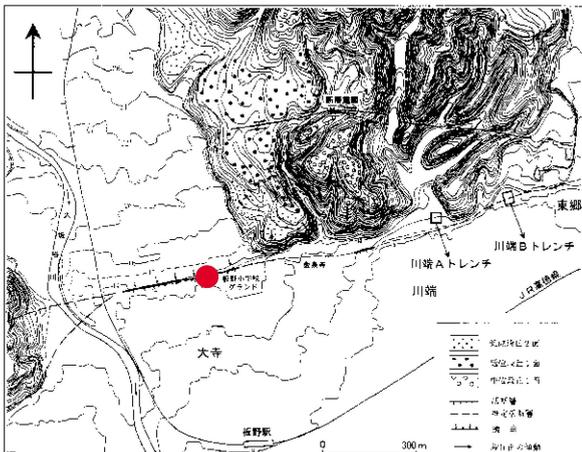
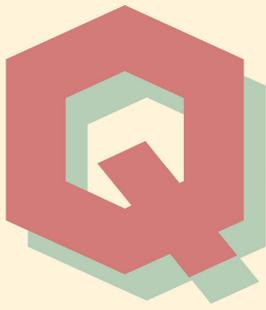


図1 板野町周辺の断層変位地形(森野ほか、2001)



図3 板野町川端のトレンチ調査で見つかった断層(1999年8月9日撮影)



徳島にはどのような妖怪の話が伝わっていますか



妖怪は、ひとびとを、不安や恐怖にかりたてる、理解することのできない不思議な出来事や現象、またそうした現象をもたらすと考えられている超自然的な存在とされます。徳島県内の市町村史誌のうち34冊の中から、上記の定義に該当する伝説を352例を集めてみたところ、圧倒的に多かったのは、狸の妖怪話で、113例ありました。ほか、蛇53例、天狗16例、火のたま15例、河童14例などが続きます。

件数の多い狸がどのような妖怪として語られているかといいますと、夜間、見目のよい女性もしくは男性、大(高)入道、徳利など何かに化けて人をたぶらかしたり、驚かしたりするというのがおもになります。そのほか、狸に取り憑かれたという話などもあります。はっきりと狸の姿を見たわけでもないのに、恐ろしい目にあったり、不思議な現象が起きると、狸のしわざだと説明されてきたことが多いようです。

徳島で狸が妖怪として多く伝えられてきた理由ははっきりとわかりません。ただ、四国東部では狐の生息数が全国と比較して少ないということに一因がありそうです。国際日本文化研究センターの「怪異・妖怪伝承データベース」(<http://www.nichibun.ac.jp/youkaidb/>)の検索ページには、全国の代表的な怪異・妖怪の呼称の項目にキツネがあげられており(ほかは、テング、タヌキ、カッパ、ヘビ、ダイジャ、オニ、タタリ、ヒノタマ、ユウレイ、ネコ、ムジナ)その件数2,009件と、代表項目の中で一番多いことが確認できます。徳島では、狐の数が少ないので、よその地域で、狐が妖怪として語られるところに、狸が当てはめられているということが考えられるかと思えます。

ほか、徳島独特の妖怪というのは少ないのですが、「アカシャグマ」という一般的にいう座敷童子に類似した妖怪、首のない胴体だけの「首切れ馬」

などと呼ばれる妖怪などは、四国に多く伝わる妖怪のようです。

また、三好市山城町に像があり、『ゲゲゲの鬼太郎』にも登場する「コナキジジイ」という妖怪については、赤子の泣き声をするという「ゴギヤナキ」「オギヤナキ」などと呼ばれる類似した妖怪の話が、四国内でちらほら伝えられているようです。けれども「コナキジジイ」として伝えられていたことが確認できるのは、現在は山城町だけとされますので、徳島独特の妖怪といえるかもしれません。



(民俗担当：庄武憲子)

〈参考文献〉

- 梅野光興 2004年「四国妖怪談義」(『四国民俗 第36・37合併号』)
- 高橋晋一編 2000年『阿波の狸文化』徳島大学総合科学部文化人類学研究室
- 多喜田昌裕 2001年『阿波の妖怪 児啼爺 調査報告』私家版



三好市山城町上名にあるコナキジジイの像
(写真提供：多喜田昌裕氏)

10月から12月までの博物館普及行事

あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	対象(定員)
歴史体験	火おこし	10月1日(日)	13:30~16:00	小学生から一般(30)
	古代の乳製品をつくろう	10月8日(日)	13:30~15:00	小学生から一般(20)
	テングサからトコロテンをつくろう	11月12日(日)	13:30~15:30	小学生から一般(20)
	勾玉をつくろう②	11月26日(日)	13:30~16:00	小学生から一般(30)
	トンボ玉をつくろう	12月10日(日)	13:30~16:00	一般(20)
歴史散歩	縄文の谷ハイキング	11月12日(日)	10:00~15:00	小学生から一般(30)
	一宮城を歩こう	12月3日(日)	10:00~12:00	小学生から一般(20)
野外自然かんさつ	地質ハイキング〜羽ノ浦編	10月8日(日)	13:00~16:00	小学生高学年から一般(25)
	歩いて地図をつくろう	10月22日(日)	13:30~15:30	小学生高学年から一般(15)
	園瀬川の古流路をさぐる	11月19日(日)	13:00~16:00	小学生から一般(40)
室内実習	化石のレプリカをつくろう	12月3日(日)	13:30~15:00	小学生から一般(20)
みどりの工作隊	リースを作ろう	12月17日(日)	13:00~16:00	小学生から一般(30)
博物館フェスティバル	文化の日フェスティバル	11月3日(金)	9:30~16:00	学生から一般
企画展関連行事	企画展スケッチ大会	10月15日(日)	10:30~15:00	小学生から一般
	企画展「海人の見た世界」展示解説①	10月22日(日)	14:00~14:30	小学生から一般
	記録映画「海女のリャンさん」上映会	10月29日(日)	10:30, 13:00, 14:45	小学生から一般(各50)
	企画展記念講演会「海の伝統文化・あま」	11月5日(日)	13:30~15:30	小学生から一般(300)
	企画展「海人の見た世界」展示解説②	11月19日(日)	14:00~14:30	小学生から一般
	企画展「海人の見た世界」展示解説③	11月26日(日)	14:00~14:30	小学生から一般
部門展示関連行事	部門展示「記録する画家・守住貫魚」展示解説	10月22日(日)	15:00~16:00	小学生から一般
	部門展示「須木一嵐の世界」展示解説①	11月19日(日)	15:00~16:00	小学生から一般
	部門展示「須木一嵐の世界」展示解説②	11月26日(日)	15:00~16:00	小学生から一般

◎文化の日フェスティバル、企画展および部門展示の関連行事については、原則として申し込みは不要です。

(ただし、一部に定員を設けている関連行事もあります。) その他の行事については、往復はがきでお申し込みください。

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。

◎企画展スケッチ大会および企画展・部門展示の展示解説は、観覧料が必要です(大学生以上)。

その他の行事は無料です。

博物館友の会に入会しませんか!

現在の会員数は380名です。(7月31日現在)

10月以降に入会の方は、年会費の半額で、来年の3月まで、
会員としての特典(常設展・企画展無料観覧等)を受けられます。

会費は、個人会員2,000円のところ1,000円、
家族会員3,000円のところ1,500円です。

友の会への入会の方法、会員の特典、行事、会費等につ
きましては、会入会案内をご覧ください。友の会事
務局までお問い合わせください。

● 徳島県立博物館友の会事務局

〒770-8070 徳島市八万町向寺山(徳島県立博物館内)
TEL 088-668-3636
FAX 088-668-7197



かいようちのかしのせ
虫送りを見に行こう(海陽町榎ノ瀬にて)

博物館ニュース No.64

■発行年月日 2006年9月15日
■編集・発行 徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向寺山
TEL088-668-3636 FAX088-668-7197
<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>